

8月15日

戦後75年。終戦から22年後に生まれた私は、祖父母や親族、地域に多くの戦争体験者がいて、各人からその時代の話を聞く機会が多くあったことは幸いでした。戦史や従軍記に関心を持っていたからか、たしか中学1年生の夏休み前に先生から「地域のお墓を全部調べてみる」と宿題を出されたことを思い出します。墓標には戦没者の氏名や階級、年齢、戦死した地名が刻まれていて、灼熱しやくねつの南方諸島や極寒の大陸：こんな遠い地で、どんな気持ちで逝ったのかと思わずにはいられなかった。

長じて行政区の役員などを長く務めさせてもらいましたが、8月15日は毎年、村の鎮守様にある護国碑で慰霊祭を担当。平成も後期になるとご遺族の人数が著しく少なくなるのを目の当たりにしてきました。遺族会から「来年の70年を節目で最後に」と言われた前年の慰霊祭でのこと、兄が戦死したという村の長老が、つえを頼りに曲がった腰をすっと伸ば

して立ち上がり、「私に一曲歌わせてくれ」と願い出てみんなを驚かせました。「これは石打駅頭に大勢の住民が集められ、戦死者の遺骨を迎える際に歌った『英霊を迎える歌』だ。兄の骨箱を抱かされて泣くことも許されず聴いたんだ」と前置きし、吟じるかのように歌われたことをセミの声とともに思い出します。「覚えていてくれ」と私につぶやき別れたのが最後で、次の夏を待たずに逝かれた。私の村だけでも明治・大正の戦役も含めて50柱を超える名が碑に刻まれ、その中には3人の女性(従軍看護婦)も含まれています。

今、市内では多くの行事が行われなくなり、村々にある慰霊碑の多くがひっそりと立つのみに。このままでいいのか？と言う人も多くはない。政治や宗教とかではなく、記憶の継承、平和の尊さと不戦の誓いをどう伝えていくか。少なくとも私たちの世代が風化から守らなければ次はないのではないか、そう感じたお盆でした。

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ 第89回

ソマリア連邦共和国 アブラヒ アリ ルフル さん



### 私の国はこんなところ

ソマリアは人口約1,500万人の国で、アフリカの最東端に位置し、地形的な特徴などから「アフリカの角」と呼ばれています。気候は熱帯性気候ですが、気温は25~28℃と熱帯の中でも比較的穏やかです。主要な産業は農業、畜産業、漁業です。バブエルマンデブ海峡へ続く南進路沿いのルートと、紅海とスエズ運河を通るルートは、世界貿易で重要な役割を担っています。魅力的な観光地の一つとしてビーチがあります。特に首都モガディシュの「ライドビーチ」は人気で、地元の人や何千人もの観光客が訪れます。ソマリアに行ったらぜひ、訪れてみてください。



### ソマリア連邦共和国

[公用語] ソマリ語、アラビア語  
 [首都] モガディシュ  
 [面積] 637,657 km<sup>2</sup> (43位)  
 [人口] 15,893,219人 (72位)  
 [GDP(PPP)] 133億2,400万米ドル  
 [通貨] ソマリア・シリング (SOS)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

### 南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼で生活する機会を得られてうれしく思います。私は日本の「人を敬う」文化が好きです。みなさんがとても親切です。この街の緑の木々や新鮮な空気などの自然環境、街を取り巻く山々のすばらしい景観は私のお気に入りです。おいしいお米と魚、特に刺身も好きです。私は南魚沼でおいしい料理と新鮮な空気を楽しんでいます！